

教科(科目)	農業と環境	単位数	3単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	「農業と環境」実教出版				
副教材等	リーダーシップ、FFN会報、プリント				

1 学習目標

<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
---

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
一 学 期	4	<b>【栽培・環境のプロジェクト】</b> ○ダイズの栽培と利用 ①ダイズ(エダマメ)とは ②課題設定と栽培計画 ③栽培の実際	・エダマメの栽培、管理 ・エダマメ栽培を通して特性や調査記録し、必要な知識、管理技術の習得 ・生育調査	9	○	○	○	・エダマメの播種 ・エダマメの定植
	5	<b>【栽培と飼育の基礎】</b> ○作物の特性と栽培のしくみ ①生活の中の作物 ②作物の自然分類 ③たねと発芽・たねまき	1 学期 中間 考 査 ・生育調査	12	○	○	○	
	6	④成長のしくみと管理 ダイズ(エダマメ)の生育と管理 ⑤作物の繁殖と育種 ⑥作付体系と作型	・エダマメ栽培を通して特性や調査記録 ・必要な知識、管理技術の習得 生育調査	12	○	○	○	
	7	○ダイズの栽培と利用 ④ダイズ(エダマメ)の利用 収穫・加工等	1 学期 期末 考 査 ・エダマメ栽培レポート	9	○	○	○	・エダマメの収量調査、 収穫・販売
二 学 期	9	○ダイコンの栽培と利用 ①ダイコンとは ②課題設定と栽培計画 ③栽培の実際	・ダイコンの栽培について ・生育調査	9	○	○	○	
	10	○ダイコンの利用 【栽培と飼育と環境のプロジェクト】 ・水辺の調査の方法と利用 【栽培と飼育の基礎】	2 学期 中間 考 査 ・基本的な環境調査を通して、植物の栽培環境の理解 ・にごり ・pH測定	12	○	○	○	・ダイコンの収穫・販売 ・EC・pHメーターによる水質調査など

		○作物をとりまく環境とその管理 ①作物栽培と環境 ②作物の生育と大気環境	・DO など					
	11	③作物の生育を支える土 ④作物の養分と肥料 ⑤作物をとりまく生物 【農業と環境を学ぶ】 ○農業と環境の学び方 ①農業学習の特徴 ②プロジェクト学習とその流れ ③報告書の作成と発表 ④農業学習におけるプロジェクト学習	・肥料の成分量・施用量の求め方  ・プロジェクト学習や農業クラブ組織についての理解	12	○	○	○	
	12	2 学 期 期 末 考 査		9	○	○	○	
		○学校農業クラブ活動 ①学校農業クラブ活動の目標	・学校農業クラブ活動の組織や活動方法についての理解					
三 学 期	1		・学校農業クラブ活動の組織や活動方法について理解する。	9	○	○	○	
	2	②栽培と飼育に関するプロジェクトの実際 ③環境に関するプロジェクトの実際		9	○	○	○	
		3 学 期 期 末 考 査						
	3	1年間のまとめ	調査データの整理・分析	3	○	○	○	

計 105 時間 (50 分授業)

### 3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	農業と環境について基礎的な知識や技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・栽培管理 ・文章による説明 ・式やグラフでの表現 ・観察・実験  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・論述やレポートの作成 ・発表、グループでの話し合い、 ・作品の制作や表現  などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ノートやレポート等における記述 ・授業中の発言 ・自己評価や相互評価等の状況  などから、評価します。

#### 4 担当者からの一言

本科目では、作物の栽培管理を通して、生徒が主体的・継続的に生育状況を観察し、問題を発見したり、自ら調べたりして管理作業を工夫しようとする態度など、粘り強く栽培技術を学ぼうとする姿勢が大切である。

(担当：近・櫻井・前島)

教科(科目)	課題研究	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	なし				
副教材等	なし				

1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点			備考	
					知	思	主		
1 学期	4 5 6	本年度計画の確認 研究を進める。	課題研究の意義を理解し、過去の研究例を参考としながら、テーマを決め、年間計画を作成する。	20	○		○	・個人ファイルを持たせ、毎週提出 ・計画書の提出 ・1学期報告書作成 (6月下旬～7月上旬)	
		進捗状況を確認し計画を微調整する。	計画表を元に研究を進める。		○	○			
		1学期報告書作成および自己評価表作成	進捗状況を確認し、計画を修正する。			○	○		
			飼育、栽培の管理		○	○			
			発育や生育に関する調査				○		○
		研究データの整理。		○	○				
		1学期報告書と自己評価表の作成をとおして、今までの反省をふまえた上での計画の見直しを図る。				○	○		
2 学期	7 8 9 10 11	研究を進める。	飼育、栽培の管理継続	30	○	○		・個人ファイルを持たせ、毎週提出 ・2学期報告書作成 (11月中旬～12月上旬)	
			発育や生育に関する調査・研究を継続			○	○		
			研究データの整理。			○	○		
		2学期報告書作成および自己評価表作成	2学期報告書と自己評価表の作成をとおして、今までの反省をふまえた上での計画の見直しを図る。				○		○
	11	研究を進める。	生育、飼育データを解析し、研究	20		○	○	2年次報告書作成と	

3 学 期	12		をまとめる。			研究中間発表会準備 (1月下旬～2月下旬)
	1				○	○
	2		パワーポイントによるプレゼン テーションの作成		○	○
	3	研究中間発表会の準備 2年次報告書の作成 自己評価表の作成 研究中間発表会 来年度の計画の作成	発表原稿の作成  2年次報告書と自己評価表の作 成を通して、1年間を振り返り課 題研究の意義と成果を確認する。 研究中間発表会の準備を行う。  1年間の成果と課題を踏まえて、 来年度の計画を立てる。		○	○
					○	○

計 70時間 (50分授業)

### 3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点	<p>農業の各分野に必要な問題解決能力や自己教育力などの育成をするため、プレゼンテーションの基礎的な知識・技術を身につけ、データをまとめることができる。</p> <p>農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、農業の意義や役割を理解している。</p> <p>実験・実習の方法が身についている。</p>	<p>農業に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わるものとして適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。</p> <p>実験・実習に向けての学習に対して、考察が的確であり、それに伴い計画の立案、変更ができる。実験・実習、学習記録簿や報告書作成が的確にできる。</p>	<p>農業に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとすると共に、実践的な態度を身につけている。</p> <p>課題の設定や計画の立案などに意欲的で研究活動・資格取得活動に熱心に取り組むことができる。</p>
評価 方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の活動ごとの報告用紙</li> <li>研究データの収集および解析</li> <li>学期報告書、自己評価表</li> <li>飼育、栽培への取り組み</li> </ul> <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画表の作成</li> <li>プレゼンテーションの作成および発表の様子</li> <li>自己評価用紙の作成</li> <li>研究データの収集および解析</li> </ul> <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画表の作成</li> <li>プレゼンテーションの作成</li> <li>自己評価用紙の作成</li> <li>日々の研究への取り組み</li> </ul> <p>などから、評価します。</p>

### 4 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画表</li> <li>学期ごとの自己評価シート</li> <li>データをまとめた研究記録用紙</li> <li>研究記録をまとめた用紙およびパワーポイント</li> </ul>
--

### 5 担当者からの一言

<p>毎時間の実験・実習報告書を提出してもらい、1学期末・2学期末に「1学期中間報告書」、「2学期中間報告書」、学年末には「2年次報告書」を作成、提出してもらいます。また、成績に加味するよう年度末に学科または専攻単位で中間発表会を実施します。</p> <p style="text-align: right;">(担当：各種専攻職員 )</p>
--

課題研究の評価						
観点	知識・技能(40)		思考・判断・表現(40)		主体的に学習する態度(20)	
項目	研究の理解・基礎知識	資料収集	計画性	整理・分析・記録(発表)	態度	提出物他
目標	研究の意義や価値を理解しており、研究に関わる基礎知識が身についている	必要な資料収集がなされている	個人や班ごとに研究課題が設定されており、研究計画が作成されている	研究結果を元に課題解決に向けた思考判断ができている 調査研究の記録が整理され、まとめられている(発表されている)	研究に主体的・協働的に取り組んでいる	指定の期限までに課題が提出されている
配点	20	20	20	20	10	10
評価の対象(例)	実習の様子 制作品 研究実施記録 自己評価表 レポート 1学期報告書 など					
指標(例)	1 努力を要する 2 やや満足できる 3 概ね満足できる 4 十分満足できる 5 計画以上で優秀である					

令和 5 年度

課題研究 (必修)	履修学年	3 学年	履修学科	全学科
	単位数	2 単位	履修専攻	全専攻

## 1. 科目の概要

学習目標	農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。		
使用教科書		補助教材	

## 2. 授業計画と学習内容

学期	月	授業計画(数値は実施授業時数)	学習内容	時間	備考
一学期	4	本年度計画の確認	昨年度の成果と課題を踏まえ、昨年度末に作成した計画を確認し修正する。	26	個人ファイルを持たせ、毎週提出
	5	研究を進める。	アドバイスをし、研究を進める。		
	6	進捗状況を確認し計画を微調整する。	進捗状況を確認し、計画を微調整する。		
	7	1 学期報告書作成および自己評価表作成	1 学期報告書と自己評価の作成をとおして、今までの反省をふまえた上で、今後どのように研究をまとめていくかを計画する。		
	9	研究を進める。	アドバイスをし、研究を進める。	8	1 学期報告書作成 (6月下旬～7月上旬)

一学期	10	研究を進める。	アドバイスをし、研究を進める。	22	2 学期報告書作成 (11月中旬～12月上旬) 研究が終わった者は冬休み前から報告書の作成
	11	2 学期報告書作成および自己評価表作成	2 学期報告書と自己評価表の作成をとおして、研究のまとめ方を確認する。		
	12	研究を進める。	アドバイスをし、研究を進める。		
二学期	1	課題研究報告書の作成 専攻内発表会の準備・発表 自己評価表の作成	課題研究報告書と自己評価表の作成を通して、1年間で振り返り課題研究の意義と成果を確認する。	14	課題研究報告書と専攻内発表会の準備(1月上旬～1月下旬)
	2				
	3				

合計 70 時間 (50 分)

## 3. 評価について

評価の 観点・ 配分・ 材料	観 点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
		1・2 学期分 30% (評価材料) 課題研究計画書、年間作業(学習)計画書、自己評価表、日頃の取り組み	実験・実習や資格取得に向けての学習・練習に対して、考察が的確であり、それに伴い計画の立案、変更ができる。実験・実習、学習記録簿や報告書作成が的確にできる。	実験・実習の方法が身につけている。あるいは、資格取得のために必要な学習・練習が実践できる。	研究に必要な総合的な知識が身につけている。目標とした資格取得ができたか。また、資格取得学習・練習の方法を的確にまとめることができる。
3 学期分 25% (評価材料) 課題研究報告書、自己評価表、日頃の取り組み	3 学期分 25% (評価材料) 実験・実習、学習記録簿、課題研究報告書、専攻内発表	3 学期分 20% (評価材料) 日頃の取り組み	3 学期分 30% (評価材料) 課題研究報告書・自己評価表、専攻内発表		
関連する検定					
担当者からのメッセージ 毎時間の調査・実験等の報告書を提出してもらおう他、1学期末・2学期末に「1学期報告書」、「2学期報告書」、学年末には「課題研究報告書」を作成、提出してもらいます。また、成績に加味するように学年末に学科または専攻単位で発表会を実施します。					





令和5年度シラバス（農業）

学番25 新潟県立新発田農業高等学校

教科(科目)	農業（農業と情報）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	農業702「農業と情報」実教出版				
副教材等	アプリケーションソフトウェアの活用技術習得のための副教材「30時間でマスター Office2019」実教出版				

1 学習目標

<p>農業の見方・考え方を働かせ、農業に関する課題を発見・調査・分析し、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な情報処理技術（情報セキュリティ対策や情報モラルへの配慮といった、情報化社会の影の部分への対策）を身につけるようにする。</p> <p>(2) ICTを活用してやりたいことが円滑に行え、情報化社会の光の部分を楽しむことができるようにする。</p> <p>(3) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(4) 地域の農業の諸課題（農業従事者の高齢化・労働力不足、耕作放棄地の増加や食料自給率の低下など）を理解し、情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産の実現を試みようとする態度を養う。</p>
---

2 学習計画

※知・知識・技術、思・思考・判断・表現、主・主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1	4	オリエンテーション	コンピュータ教室と端末の使用ルールを学習する。	4	○			端末の起動、終了方法の点検
		情報端末の基本操作_① 第1章 私たちの生活と農業の情報化 1 情報社会における私たちの生活 2 情報とメディア 3 情報社会とモラル 4 農業を支える情報 定期（中間） 考査	・教育用クラウドサービスの活用方法や端末基本操作を理解する。 ・情報化社会の光と影について考え、SNSの使い方や、個人情報の取り扱い、知的財産権の保護、情報モラルについて理解する。	18			○	教育用クラウドサービスの活用方法と端末基本操作の点検 実習の様子 (行動の確認) レポート・演習プリント(記述の確認)
1	7	情報端末の基本操作_② 第2章 社会を支えるコンピュータ	・アプリケーションソフトの基本操作を理解する ・コンピュータのしくみ、コンピュータで取り扱う情報の種類と表現、情報通信ネットワークとインターネットのしくみ、情報のセキュリティ管理、などを理解する。	20			○	端末の操作の点検 実習の様子(行動の確認) レポート・演習プリント(記述の確認)
2	8	1 コンピュータのしくみ			○			
	9	2 データや情報の表現			○			
		3 情報通信ネットワーク				○		
		4 インターネットのしくみ				○		
		5 情報セキュリティ				○		
		定期（期末） 考査			○	○		
2	10	第3章	・さまざまなアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解する。	20			○	端末の操作の点検 実習と発表の様子(行動の確認)
3	11	コミュニケーションと情報デザイン			○			
	12	1 情報表現とソフトウェア			○			
	1	2 文書の作成と表現	・自分で活用できるように基本的な技術を身に付ける。		○			レポート・演習プリント(記述の確認)
		3 データの集計と視覚化			○			
		4 プレゼンテーション			○			
		5 情報発信				○		
		定期（中間・期末） 考査			○	○		

3	2	第5章		8			○	実習の様子(行動の確認)
	3	農業情報の分析と活用 1 農業情報の収集と分析 2 農業生産、環境、食品に関する情報分析と活用 定期(学年末) 考査						

計 70時間 (50分授業)

### 3 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報社会のしくみや農業分野の情報化、農業の発展に関する知識を理解し、適切に情報を収集して活用している。</li> <li>情報社会の個人の責任とセキュリティ管理に関する知識を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業学習に関する課題の解決をめざし、て思考を深め、基礎的な知識と技術をもとに科学的に判断している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報社会のしくみや農業各分野の情報化に関心をもち、農業の情報化や農業の発展に関する課題や活用について探求しようとしている。</li> </ul>
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査、実技テストの分析</li> <li>演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認</li> </ul> <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査、実技テストの分析</li> <li>授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察</li> <li>演習プリントやレポート、作品などの提出物の内容の確認</li> </ul> <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実技テストの分析</li> <li>授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察</li> <li>演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認</li> </ul> <p>などから、評価します。</p>

### 4 課題・提出物等

- ・ 演習プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・ アプリケーションソフトを活用した課題や作品の提出物があります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

### 5 担当者からの一言

農業と情報の授業では、さまざまなソフトウェアについて課題を通して実践的に学び、2、3年生での課題研究やプロジェクト学習に必要な技術を身につけます。情報は現代社会では自らの生活と切り離せないものであり、モラルやリテラシーを身につけることが重要であることを理解してください。

(担当：西海土 行木)